

## 解 答

|        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 (A)  | 2 (C)  | 3 (C)  | 4 (C)  | 5 (D)  | 6 (B)  |
| 7 (B)  | 8 (A)  | 9 (D)  | 10 (A) | 11 (C) | 12 (A) |
| 13 (D) | 14 (A) | 15 (C) | 16 (B) | 17 (D) | 18 (B) |
| 19 (D) | 20 (C) |        |        |        |        |

1. 「監督がジョンの負傷を知っていたならば、彼をチームに入れなかつたであろうに」  
 ▶ 仮定法過去完了のIf the manager had known about John's injuryのifを省略すると、Had the manager known about John's injuryとなる。

## ifを省略した仮定法

仮定法におけるifを省略すると倒置が起こり、疑問文と同じ語順になる。ただし、主語の前に置かれるのは原則として**were/had/should**の3つに限られる。

If I **were**[was] a rich man → **Were**[^was] I a rich man (もし私が金持ちなら)  
 If it **were** not for ~ → **Were** it not for ~ (~がなければ)  
 If you **had** been ~ → **Had** you been ~ (あなたが~だったなら)  
 If anything **should** happen → **Should** anything happen (万一何かあったら)

2. 「今日は大変暑いので、外出したくない」  
 ▶ 結果や程度を表すso...that~/such...that~構文の問題である。本問はhot dayという形容詞で修飾された名詞を強調するので、(C)such aが正解である。

□ such(+ a)(+ 形容詞)+ A(名詞)+ that ... 「とても～なAなので…」

He is **such a** kind boy **that** everybody likes him.

(彼はとても親切な少年なのでみんなに好かれている。)

▶ so+形容詞+a+名詞+that...と同じ意味である。ただし、soの後には形容詞または副詞が、suchの後には名詞がくることに注意。

He is **so** kind **a** boy **that** everybody likes him.

(彼はとても親切な少年なのでみんなに好かれている。)

3. 「君は金曜日の朝はいつも早起きするんだよね？」

▶ You get up ...に対する付加疑問文はdon't you?である。

4. 「地球温暖化を阻止するために、二酸化炭素排出を削減することがとても重要である」  
 ▶ 選択肢はすべて前置詞であるので、文脈よりふさわしいものを選ぶ。cut down(削減する)するthe production of CO<sub>2</sub>(二酸化炭素の排出)との関連を表すには、動作の対象を表す(C)onがふさわしい。

[例] He is concentrating **on** his experiment.

(彼は実験に集中している。)

□ cut down (on) ~ 「～を減らす/～を切りつめる」 (= reduce ~)

▶ (不必要的部分を)切り(cut)落とす(down)→～を小さくする/減らす

We will have to **cut down** **on** our food budget next month.

(来月は食費を切りつめなくてはならないだろう。)

5. 「私は、エミリーがやろうと意図していることには、決して満足していない」

▶ 空欄後のno meansを手がかりに前置詞を選ぶ。by no meansで「決して～でない」という強い否定表現になるので、(D)が正解。

□ by no means 「(どんな手段によっても)決して～でない」 (= not at all)

Bill is **by no means** a coward. He is just shy.

(ビルは決して臆病者ではありません。ちょっと内気なだけです。)

6. 「彼らはホームレスへの金を集めるためにかばんを回した」

▶ (A)のpass away「死ぬ/滅びる」は自動詞用法なので文法的に不可であるが、残りはすべて成立する。文脈から判断すると「ホームレスへのお金を集めるために」かばんをpass ( )したのであるから、(B)を選びpass around「～を順々に回す」とすれば意味が通る。

- ▶ その他は、(C)pass into 「～に渡る/～の一部になる」、(D)pass through 「～を通り過ぎる/～を経験する」という意味である。
- pass (a)round** ~「～を順々に回す」  
 Have some salad and *pass it around.*  
 (このサラダを取って回してください。)
7. 「キムさん、昨夜はコンサートに招待していただいてご親切さまでした。本当に楽しいひと時を過ごしました！」
- ▶ I **had** a great time の had を強意用法の助動詞 do を用いると、I **did have** a great time となる。
- do[does/did] + 動詞の原形 「本当に～する[した]」** 《動詞の強調》  
 ▶ do/does/did を動詞の前に置くことによって、その動詞を強調し、「本当に[確かに]～する[した]」という意味にすることができる。この do は助動詞なので、動詞は原形となる。この場合 do/does/did は強く発音される。  
*I did see a rabbit jumping on my desk!*  
 (私は、本当にうさぎが私の机に飛び乗るのを見たのです。)
8. 「提案ありがとうございます。上司とそれについて話し合わせてください」
- ▶ 空欄前に talk it とあるので、選択肢に含まれる前置詞とあわせて文脈的に意味の通る群動詞となるような選択肢を選ぶ。(A)talk over 「～について相談する」という表現がこの場合ふさわしい。  
 その他は、(B)talk to 「～に話しかける」、(D)talk on 「話し続ける」という意味である。  
 **talk A over with B 「A(事)について B(人)に相談する」**  
*I'll talk the matter over with my father.*  
 (その件について父に相談します。)
9. 「私はニューヨークに到着するまでに、3回飛行機を乗り換えていることだろう」
- ▶ by the time ~ は接続詞の働きをする語句で「～するまでには」という期限を表す。  
 **by the time** ~「～するまでには」 ➡ until[till] と混同しないように。  
 I will be back *by the time* you leave. 《完了の期限》  
 (君が帰るまでには戻ります。)  
 cf. I will be here **until** you leave. 《動作や状態の継続》  
 (君が帰るまでずっとここにいます。)
- | timeを用いた接続詞表現   |
|---|
| <input type="checkbox"/> <b>by the time</b> ~「～するまでには」 <input type="checkbox"/> <b>next time</b> ~「今度～するとき」 |
| <input type="checkbox"/> <b>the first time</b> ~「初めて～するとき」  |
| <input type="checkbox"/> <b>the last time</b> ~「この前[最後に]～したとき」  |
| <input type="checkbox"/> <b>every[each] time</b> ~「～するときはいつでも/～するたびごとに」                                     |
10. 「トムのジョークは滑稽ではなかったが、マリアは急に笑い出した」
- ▶ 選択肢には似たような意味の表現が並んでるので、一つ一つ和訳して当てはめていると解答が定まらなくなる。空欄直後に laughing という動名詞があるので、動名詞を目的語にとる表現を探す。(A)burst out doing 「突然～し始める」 が正解である。  
 (B)begin to do 「～し始める/～するようになる」は不定詞を目的語にとる。  
 (C)break into 「急に～し始める/(建物など)に侵入する」、(D)start with 「～から始める/～に端を発する」では前置詞の目的語に名詞が入る。  
 **even though** 「～ではあるが」  
*Even though[<sup>×</sup>Even if] it was raining, we (still) went to the beach.*  
 (雨が降っていたが(それでも)海へ行った。)  
 cf. even if 「たとえ～でも」 ➡ 後ろに仮定的な事柄が来ることが多い。  
*Never give up even if you make mistakes.*

(たとえ間違いをしても、あきらめてはいけない。)

### 『急に～し始める』の同意表現

- burst into A** 「(活動・事など)を突然始める」  
burst into laughter[tears] 「突然笑い[泣き]出す」
- burst out doing** 「突然～し始める」  
burst out laughing[crying] 「突然笑い[泣き]始める」
- break into A** 「①急にAを始める, ②Aに押しに入る」  
break into laughter[tears] 「急に笑い[泣き]出す」

11. 「私は車の運転はかなり得意だが、車の修理となるとまったく駄目だ」

- ▶ *when it comes to doing*で「～することになると[関しては]」という慣用表現である。構文から解くと、空欄後に *to fixing cars* と『前置詞 + 動名詞』が続いているので自動詞が入ると推測できる。選択肢の中で (C) *comes* 以外は他動詞であるから、(C) が正解である。

- when it comes to doing** 「～することになると[関しては]」

- ▶ I can use a computer, but *when it comes to repairing them*, I know nothing.

(私はコンピューターを使うことができるが、修理に関しては何も分からない。)

- be good at ~** 「～が得意である」

- ↔  **be poor at ~ / be weak in ~** 「～が苦手である」

12. 「スーザンはチームがディベート競技会で負けたことでピーターを責めたが、私は全てが彼の責任だとは思わない」

- ▶ 空欄に入る動詞が Peter という「人」を目的語にしていることに着目すると、選択肢は (A), (B) にしほられる。さらに Peter のあと *for* につながる語法を持つのは (A) *blame* である。

- blame A for B** 「A(人)をB(のこと)で責める」

I don't blame you for doing that.

(私は君がそれをしたからといって責めはしない。)

- accuse A of B** 「A(人)をB(のこと)で非難する、責める」

- argue with A about[over] B** 「BについてAと口論する」

- complain (to A) of[about] B** 「(Aに)Bについて不平を言う」

13. 「ジョンソン教授はメアリーがアルバイトをやめるように勧めた」

- ▶ that節内の動詞が原形になっている点に注目。このように that 節内で仮定法現在の形をとることができるのは、(D) *recommended* のみ。提案を表す動詞は、that 節内を **should + 動詞の原形**、または **動詞の原形** で表現する。

### 『提案・要求』などを表す動詞に続く that 節

提案・要求・決定などを表す動詞に続く that 節では **should** が用いられる。この構文で用いられるおもな動詞は以下のとおり。

|                 |                |                |
|-----------------|----------------|----------------|
| advise (忠告する)   | decide (決定する)  | demand (要求する)  |
| insist (要求する)   | order (命令する)   | propose (提案する) |
| recommend (勧める) | request (要求する) | suggest (提案する) |

I suggest that you **should** stay at the hotel.

(そのホテルに泊まることをお勧めします。)

【注意】この構文では、**should** を用いずに **動詞の原形** を用いることが多い。

She suggested that we **share** the cost of the meal.

(彼女は食事代を割り勘にしようと提案した。)

14. 「皇室の結婚は世界中の人々の関心をひきつけた」

- ▶ *interest* 「興味、関心」を「ひく」には (A) *attract* を使う。

[例] *attract a lot of interest* 「多くの興味を引く」

Try not to *attract* attention.

(人目を引かないようにしなさい。)

- ▶ (B)collect「～を収集する」, (C)gather「～を集める」, (D)find「～を見つける」

15. 「ジョンは両親の重荷にはなりたくなかった。それで職探しに精を出そうとした」

- ▶ burden to[on] ~で「～に対する重荷」という意の表現を作る。

その他の選択肢は, (A)stress「ストレス, 緊張」, (B)suffering「苦痛, 苦難」, (D)responsibility「責任, (費用の)負担」という意味である。

- **be a burden to[on/for] A** 「A(人)の重荷になる」

The mother didn't want to *be a burden to [on]* her son.

(母親は息子の重荷になりたくなかった。)

16. 「インターネットによる情報の流れに深刻な中断が起これば、今日では事業にとって大がかりな惨事となるだろう」

- ▶ Information flows.「情報が流れる」の名詞構文がthe flow of informationである。flowには、情報やお金の流れを表す意味がある。

[例] a flow of funds 「資金の流れ」

- ▶ (A)run「(状態・事などの)連続, 続き」, (B)flow「(液体, 人・物の絶え間ない)流れ」, (C)course「(時・事態の)経過, 成り行き」, (D)path「小道, 進路」

17. 「我々の最初の提案は拒絶されても、まだ他にいくつかの代案がある」

- ▶ 選択肢は順に, (A)changes「変化」, (B)kinds「種類」, (C)differences「相違点」, (D)alternatives「代案」。文脈より(D)が最もふさわしい。

- **even if ~ 「たとえ～でも」** ➡ even ifの後には仮定的な事柄が来ることが多い。

Never give up *even if you make mistakes*.

(たとえ間違いをしても、あきらめてはいけない。)

- ▶ evenがつかないでifだけでも譲歩を表すことがある。

We'll finish it, **if it takes us all day**.

(1日中かかってもそれを仕上げてしまうつもりだ。)

18. 「野球の試合を始めるや否や、雨が降り始めた」

- ▶ hardly[scarcely] ~ when[before] ... の構文である。「～するとすぐに…/…するかしないうちに～」という意味である。

- **hardly[scarcely] ~ when[before] ... 「～するとすぐに…/…するかしないうちに～」**

▶ 「～」に過去完了形、「…」に過去形を用いて、過去のことを表す場合が多い。

I *had hardly entered* the house *when* the telephone rang.

(私が家に入るとすぐに電話が鳴った。)

▶ 強調のためにhardlyが文頭にくると、主語と助動詞[またはbe動詞]が倒置される。文語的な表現だが、入試では倒置形が重要。

**Hardly had I entered** the house **when** the telephone rang.

▶ hardlyの代わりにscarcelyを使い、whenの代わりにbeforeを使うこともある。

19. 「ビタミンAは病気に対する人体の抵抗力を増加させ、成長を促進するのに役立つ」

- ▶ 選択肢はすべて名詞であるが、空欄後のto diseaseに着目する。toが続く語法を持つものは, (A)challenge「課題」, (D)resistance「抵抗力」の2つである。文脈より判断すると(D)がふさわしい。その他の選択肢は, (B)fight「戦い」, (C)dispute「論争」という意味で, fight [against/for], dispute [with/between/about/on/over]などと使われる。

20. ビル：「マーク、一緒に仕事ができて嬉しかったよ」

マーク：「ビル、僕も同感だよ」

- ▶ The feeling is mutual.は「私も同感です/こちらこそ」の意の定型表現。

選択肢はそれぞれ, (A)identical「同一の」, (B)same「同じ」, (C)mutual「(感情・行為などが)相互の」, (D)alike「似ている、同様な」という意味である。